

Maruzen eBooks Library

岩波書店

現代人の教養

Maruzen eBook Libraryにある岩波書店の文庫・新書の中から、先生方に選書していただきました。次ページより、先生方の選書コメントを掲載していますので、ぜひMaruzen eBook Libraryの「現代人の教養」をご利用ください。

※先生方の所属学科、役職名は2020年度当時のものによる。

Maruzen eBook Libraryのアクセス方法

学内のパソコンから、図書館HPにあるMaruzen eBook Libraryのアイコンをクリック！



※リモートアクセスに登録すれば、学外からでも利用が可能です。

詳しくはこちらのQRコードから！



ロウソクの科学 ファラデー 著／竹内敬人 訳	
	2019年度ノーベル化学賞を受賞した吉野彰さんが愛読していたことで有名になった本で、「ロウソク」といった身近な材料をもとに、「なぜだろう」という科学的な思考を刺激してくれる。 (診療放射線学科 笛吹修治先生)
心と脳 認知科学入門 安西祐一郎 著	
	私の好きな言葉に「人間は一人では生きていけない」があります。予測不能な時代を、人として生きていくためには何が必要か考えるきっかけになる本です。 (診療放射線学科 笛吹修治先生)

生物から見た世界 ユクスキュル, クリサート 著／ 日高敏隆, 羽田節子 訳		
生物から見た世界 ユクスキュル, クリサート 著 日高敏隆・羽田節子 訳  甲斐の田舎とオウ の園と、田舎の 風景とが描かれる。 動物の生態観察の 知識と経験でつく り出す、読者の心 を捉える、上質な 動物の生態と人間 生活、自然との関 系を説く。動物の生態と人間の生活の関 系を説		

ウイルスと人間 山内一也 著	
	今だから読んで欲しい本。正しく理解して役立てて欲しい。 (診療放射線学科 笛吹修治先生)
タンパク質の一生 生命活動の舞台裏 永田和宏 著	
	生命を維持するためにタンパク質がどのように働いているか、丁寧に描いてある。病気の原因を理解するためにも読んで欲しい本である。 (診療放射線学科 笛吹修治先生)

文学部唯野教授 筒井康隆 著	
	ある大学であった本当の事件なども盛り込まれており、単なるフィクションとは思われる作品です。作品から感じられる作者はハチャメチャな人を想像しますが、本当にハチャメチャの人はハチャメチャな作品を書けません。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)
オイディプス王 ソポクレス 著／藤沢令夫 訳	
	精神分析の創始者S.フロイトの「エディプス・コンプレックス」概念のもとになったギリシャ悲劇です。精神分析に興味のある方にぜひ一読お薦めします。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)

こころ 夏目漱石 著	
	こころは揺れ動く。こころには光と影がある。「真面目に生きる」とは何か？「先生」との対話によってさらに迷宮に迷い込む。そんな作品です。ぜひ一読をおすすめします。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)

ソクラテスの弁明 クリトン プラトン 著／久保勉 訳	
	獄中のソクラテスを脱獄させようと密かに潜入した幼馴染クリトンに「人間はただ生きるのではなく、善く生きるのだ」と言い放って毒をあおるソクラテスの生き方に感動しました。現在よく使われるwell-beingという言葉の始まりではないでしょうか。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)

自選 谷川俊太郎詩集 谷川俊太郎 著	
	谷川（たにかわ）俊太郎。日本を代表する詩人。「生きる」「ことばあそびうた」「スイミー」（翻訳）、「スヌーピー」（翻訳）など、代表作が多数。現在88歳。 歩いている 自分の二本の脚で歩いている いつか歩けなくなるとしても いまは歩ける幸せ (「歩く」より) CMにもなった「朝のラリー」は載っていない。他のアンソロジーと比べても面白そう。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

日本語練習帳 大野晋 著	
	20年ぐらい前の大ベストセラー。だいぶ前の本だけど、日本語の読み方、書き方のコツって、そんなに変わらないのだ。単語や語彙といった、小さなものへの感度を高めることの大切さを説く第一章「単語に敏感になろう」も良いのですが、文章の構成を考える方法を具体的に指南する第四章「文章の骨格」の、文章を「縮約」する作業のくだりは、目から鱗！ 興味が広がれば、続編にあたる『日本語の教室』（岩波新書）がオススメ。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

江戸川乱歩短篇集 千葉俊二 編	
	私は所収の「押絵と旅する男」を乱歩先生の最高傑作だと信じております。この駄作として著者によりいったんごみ入れに捨てられようとした作品こそ「乱歩文学」の真骨頂です。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生) 江戸川乱歩。日本の探偵小説の父。明智小五郎、少年探偵団、怪人二十面相のイメージが強いが、むしろ、エロ・グロ、幻想小説の方に、心惹かれる作品が多い。乱歩作品の幅広さを存分に味わえる一冊。 「いけません。いけません。それはさかさですよ。さかさに覗いてはいけません。いけません」 なぜ双眼鏡を逆に覗いてはいけぬのか？ 答えは、「押絵と旅する男」にある。 (医療福祉学科 田野慎二先生)

人間失格 グッド・バイ 他一篇 太宰治 著		
	作者は「人間失格」と自身を呼ぶが、井上ひさしは「人間合格」と言う。どちらなのかは一読されて判断ください。少年時代・青年時代・大人になってから何度も読み返した作品は「人間失格」しかありません。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)	読者に「これは私のことではないか」と思わせる名人が太宰である。それが今なお高い人気の秘密かもしれない。 (心理学科 甲田純生先生)

新版 きけ わだつみのこえ 日本戦没学生の手記 日本戦没学生記念会 編 著		
	選者の精神分析での師・樋口由子先生の実弟・馬場充貴氏の歌が載っております。樋口先生は100歳近くまでご存命でしたが、いつも24歳でベトナムのナトラン沖で散った弟さんのことを話しておられました。 (医療栄養学科 鶴田一郎先生)	日中戦争から太平洋戦争に至るまでの長い戦争が終わって75年。もうその経験者はずいぶん少なくなってしまった。生まれてからずっと戦争だったと言っていた母もなくなり、学徒出陣から幸い生きて帰ってきた父もなくなった。しかし、戦争の中で失われた命も父や母と同じ生涯を歩めたはずなのだ。戦死した人も生き残った人も何も特別なものではなく、今を生きる大学生と同じだった。彼らの声を聞きたい。 (救急救命学科 青山裕彦先生)

現代秀歌 永田和宏 著		
	一日が過ぎれば一日減ってゆくきみとの時間 もうすぐ夏至だ 著者が、100年、200年と読み継がれることを願って編んだ、現代短歌のアンソロジー。これだけは知っておきたい、100人の100首が取り上げられる。解説付きで、状況も分かりやすい。掲出歌は、それらとは別に「おわりに」で触れられた著者の歌。授業で取り上げて、どんな歌か書いてもらおうと、中高生の青春の一場面をイメージする人も多いけれど、実は……。著者の和歌に対する思いを知るために、「おわりに」から目を通してもらいましょう。 ちなみに、Maruzen eBook Libraryでは、同じ著者の『近代秀歌』『タンパク質の一生 生命活動の舞台裏』も読める。後者は何？ と思った人は、ちょっとググってみよう！ (医療福祉学科 田野慎二先生)	

詩のこころを読む 茨木のり子 著	
	東日本大震災の後、被災地で行われた成人式で吉野弘の「いのち」が朗読されたという番組を見たことがある（クローズアップ現代＋「“いまを生きる言葉”～詩人・吉野弘の世界～」）。詩が生きることの支えになることは、確かにあるのだ。そんな詩への出会いの一つとして最適の一冊。 Maruzen eBook Libraryでは『茨木のり子詩集』も読める。「自分の感受性くらい」で、心地よく叱られてみよう！ （医療福祉学科 田野慎二先生）

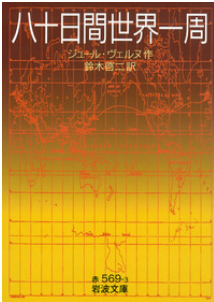
武士道 新渡戸稲造 著／矢内原忠雄 訳	
	武士道はその表徴たる桜花と同じく、日本の土地に固有の花である。 2019年ラグビーワールドカップ日本大会は盛り上がった。日本代表ユニフォームのデザインコンセプトは兜。合宿所には、志気を鼓舞するために甲冑が飾られ、代表から外れることになった選手には、リーチマイケル選手から、刀（レプリカ）が贈られていた。今も日本は、サムライの国なのだ。 （医療福祉学科 田野慎二先生）

読書について 他二篇 ショウペンハウエル 著／ 斎藤忍随 訳	
	読書は他人にもの考えてもらうことである。 表題作は、21ページと短い。本を読むのが嫌いな人は、この本で、しっかり理論武装しよう！読書は「読まずにすまず技術」が何より肝要なのだ。この本を選んだ人は、Maruzen eBook Libraryの、齋藤孝『読書力』にも興味を持つはずだ。 （医療福祉学科 田野慎二先生）

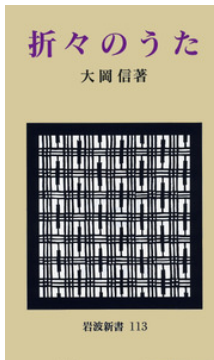
坊っちゃん 夏目漱石 著	
	漱石は明治の二大文豪の一人であり、日本文学界きっての名文家である。リズムのある美しい日本語を味わってほしい。 （心理学科 甲田純生先生）

ソクラテス 田中美知太郎 著	
	田中美知太郎は、日本におけるギリシア哲学の大御所である。ソクラテスの生き様はまさに哲学そのもので、哲学の入門書としてもよい。 （心理学科 甲田純生先生）

小僧の神様 他十篇 志賀直哉 著	
	志賀直哉の文章は、さりげなさの中に朴訥とした美しさがある。決して読み急がずその日本語を玩味してほしい。 （心理学科 甲田純生先生）

八十日間世界一周 ジュール・ヴェルヌ 著／鈴木啓二 訳	
	ところで、結局？ この旅行から彼は何を得たのであろうか？ 何を持ち帰ったのであろうか？ 近代空想科学小説の先駆者ジュール・ベルヌの代表作。書かれたのは、明治5（1872）年というから驚き。日本では、新橋横浜間の鉄道が開通したのがちょうどこの年。もう読んだという人は、マシュー・グッドマン著、金原瑞人・井上里訳『ヴェルヌ『八十日間世界一周』に挑む』がオススメ。原作から16年後、実際にヴェルヌの創作に挑んだ二人の女性記者がアメリカにいたのだ！ （医療福祉学科 田野慎二先生）

蟹工船 一九二八・三・一五 小林多喜二 著	
	「おい地獄さ行（え）ぐんたで！」 蟹工船内の過酷な労働環境を描いたプロレタリア文学の金字塔。2008年度には、新語・流行語にトップ10にも選ばれ（「蟹工船（ブーム）」）、再脚光を浴びた。松田龍平主演の映画あり。『まんがで読破 蟹工船』（イースト・プレス）は本学図書館にも所蔵。 2008年前後の社会状況を知りたい人のためには、Maruzen eBook Libraryの、湯浅誠『反貧困「すべり台社会」からの脱出』などがオススメ。 （医療福祉学科 田野慎二先生）

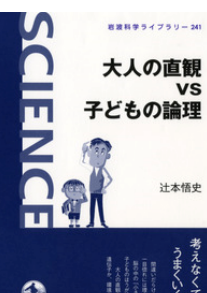
折々のうた 大岡信 著	
	十四日、オ昼スギヨリ、歌ヲヨミ、ワタクシ内へ、オイデクダサレ これは、正岡子規が門人に宛てた葉書に書いた短歌。彼を自宅へ誘った短歌。短歌は、身近な日常的なものでもあった。 本書は、詩人・大岡信が、「朝日新聞」朝刊一面で連載したコラムを再編集したもの。連載は三十年近く続き、岩波新書でシリーズ化された、日本の短詩型文学の一大アンソロジー。「折り」（時節・季節）を大事にするのが日本の文化の特徴。いろんな詩歌に気軽に触れたいときに頼れる一冊。 （医療福祉学科 田野慎二先生）

日本の思想 丸山真男 著	
	丸山真男の代表作であり、日本人の心根がわかる良書である。 （心理学科 甲田純生先生）

中原中也詩集 大岡昇平 編	
	有名な「汚れちまった悲しみに」だけでも是非味わってほしい。 （心理学科 甲田純生先生）

山月記・李陵 他九篇 中島敦 著		
	中島敦は漢字が多くて苦手だという人もいるかもしれないが、辞書を引きつつ頑張って読めばその美しさに気がつくだろう。 (心理学科 甲田純生先生)	高校の国語の漢字の宿題として「李陵」が課されたのが出会い。併載されていた「名人伝」が、今になれば心に響く。弓の名人ならんとして修行を積んだ結果、矢を射ることなく鳥を落とすまでになったのだが、その最後は… (救急救命学科 青山裕彦先生)

論語 金谷治 訳注		永遠平和のために カント 著／宇都宮芳明 訳	
	ここには先人の知恵が詰まっている。肩肘張らずに気軽に読んでみよう。生きるために必要な多くのことを教えられるはずだ。 (心理学科 甲田純生先生)		カントの哲学書は専門家以外には手がつけられないが、この本は専門外の人にも読むことができる。 (心理学科 甲田純生先生)

大人の直観vs子どもの論理 辻本悟史 著		外国語学習に成功する人,しない人 第二言語習得論への招待 白井恭弘 著	
	本書では、「異性を長く見ていると魅力的に感じやすい」「吊り橋効果」など、大人が思わずしている論理的でない行動や、意外と論理的な子どもの行動について、認知心理学・脳科学の観点から説明されています。何気なくしている普段の行動の背後にある心理的傾向や、脳の働きを知ることができます。 (医療福祉学科 杉本巧先生)		言語習得研究の知見をもとに、日本語母語話者がなかなか英語を使えるようにならない理由、語学学習に向いている人、効果が出やすい学習法などについて書かれています。英語力が思ったように伸びない人は、本書を参考に、学習の仕方を見直してみるとよいかもしれません。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

先生! 池上彰 編		幸福の増税論—財政はだれのために 井手英策 著	
	池上彰さんの新聞に掲載されている学生論はとても興味深い (医療経営学科 成清哲也先生)		高福祉高負担はこれからの日本を考えるうえで重要な選択肢となろう (医療経営学科 成清哲也先生)

大学とは何か 吉見俊哉 著	
	「大学とは何か」と問われると、学生、保護者、教員、事務職員、大学経営者それぞれが異なった回答をするでしょう。大学という場をどう捉えるかは、そこで行われるコミュニケーションにも大きな影響を与えます。本書のキーワードは、「メディアとしての」大学です。大学の歴史的変遷をたどったうえで、その現代的な意味を論じています。自分が居る場所の意味を考えてみましょう。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

新版 アフォードダンス 佐々木正人 著	
	あなたの目の前にある一枚の紙が「破れる」かどうか、なぜ分かるのでしょうか。それは、紙が「破れる」という意味をあなたに与えている、「アフォード」しているからです。本書は、人間の知覚だけでなく、環境で動き回るロボット (AI) の開発においても重要な概念である「アフォードンス」について、初学者向けに解説しています。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

村上春樹は、むずかしい 加藤典洋 著	
	村上春樹の「文学的達成の実質を計量する」ことを狙いとする本です。村上作品を年代順に精緻に紐解きながら、各作品の文学 (界) 的な位置や価値が丹念に論じられています。毎回のようにノーベル文学賞が期待されるベストセラー作家としてしか知らない人も、読んでみると村上作品に興味を湧くかもしれません。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

やさしい日本語ー多文化共生社会へ 庵功雄 著	
	近年、外国から日本に移住する人が増加しています。中には日本語が十分に使えない人もいます。では、そのような人たちに、大災害や感染症拡大などの緊急事態や、医療場面などでどうやって必要な情報を伝えればよいのでしょうか。本書では、日本語が十分に使えない人たちとともに暮らすための「共通語」である「やさしい日本語」の考え方を具体的に解説しています。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

科学の目 科学のころ 長谷川真理子 著	
	本書は、科学が好きな人が少しでも増えてほしいという思いで書かれています。身近な出来事を生物学や生態学といった科学的知見から読み解いていきます。たとえば、国同士の軍拡競争が生じる理由を、カッコウとカッコウに寄生する鳥との関係になぞらえて考えていきます。科学的なものの見方の導入として適しているでしょう。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

ちいさい言語学者の冒険ー子どもに学ぶことばの秘密 	
	子どものころ、「死ぬ」を「死ぬ」と言っていたという記憶はないでしょうか。これは、「ちいさい言語学者」である子どもが大人のことばに触れながら、ことばのルールを見つけるために仮説を立て、試行錯誤しているからこそ生じる誤りです。特に将来親になる人、子どもと接する職業に就く人は、本書を読んでおくと、子どもとの会話が楽しく、刺激的なものになるでしょう。 (医療福祉学科 杉本巧先生)

勉強法の科学 心理学から学習を探る 市川伸一 著		科学の方法 中谷宇吉郎 著	
	覚えたはずの用語が必要なときに出てこない、試験の時は覚えているのに時間が経つと忘れていなど、勉強法についての悩みは多いでしょう。記憶を定着させ、必要なときに使う覚え方、同じ勉強時間でより深い理解にする学習方法など、認知科学の成果に基づいて具体的に解説されています。 (医療福祉学科 杉本巧先生)		「科学的」な根拠を求められたり、「科学的」だから正しいと主張されたりする。では「科学的」とはどういうことだろう？ 物理学者、中谷宇吉郎は寺田寅彦の随筆の面でも弟子である。別の随筆に「立春の卵」がある。立春には水平な板の上に卵を立てられる、と聞き、やってみると多くの人が立てられた。さて、この説は正しいだろうか？ それを判断できる力が「科学的」な力である。 (救急救命学科 青山裕彦先生)

知的生産の技術		
梅棹忠夫 著		
	知的に情報を生産する技術をまとめたエッセイです。スマホやパソコンなど全く使われていないころに書かれた本ですが、カードを使ったメモや記録の整理、それらを元にした原稿執筆など、現代的なツールに置き換えながら活用できるアイデアが満載です。 (医療福祉学科 杉本巧先生)	パソコンもスマホもなかった時代の「知的生産の技術」。紙のカードにデータを記し、それを色々組み合わせるうちに新しいストーリー、考え、仮説など、「知的産物」が見えてくる。現在、パソコンで、データベースや、表計算、ワープロなどのソフトがどのように活用できるか、その基本となる考え方この。著者は京大理学部出身というより、探検部出身とよく言われた。フィールドワークを主体とする文化人類学、民俗学の徒であった。 (救急救命学科 青山裕彦先生)

99歳一日一言 むのたけじ 著		がん免疫療法とは何か 本庶佑 著	
	著者むの・たけじは、1945年8月15日に朝日新聞社を退職した退職の理由は、戦争中の朝日新聞について誰一人責任を取ろうとしないのを見て憤ったためという。その後、一人で、週刊新聞「たいまつ」を1987年まで発行し続けた。反戦の言論を続けることは、彼にとって、自分の言動に責任を取ることであった。「たいまつ」休刊後も101歳で亡くなるまで発信し続けた人と会話したい。 (救急救命学科 青山裕彦先生)		がんの治療法の4つ目として期待されている。 (医療経営学科 成清哲也先生)

日本をどのような国にするかー地球と世界の大問題 丹羽宇一郎 著		平成経済 衰退の本質 金子勝 著	
	まさにビジネス界のインテリ、興味深い。 (医療経営学科 成清哲也先生)		失われた20年について改めて検討が必要であろう (医療経営学科 成清哲也先生)

ゲーム理論入門の入門 鎌田雄一郎 著		君主論 マキアヴェッリ 著／河島英昭 訳	
	ゲーム理論は社会人として欠かせない知識となった (医療経営学科 成清哲也先生)		ローマ人の物語の作者である塩野七海がよく引用する (医療経営学科 成清哲也先生)

ご冗談でしょう、ファインマンさん 上		
R.P. ファインマン 著／大貫 昌子 訳		
ご冗談でしょう、ファインマンさん 下		
R.P. ファインマン 著／大貫 昌子 訳		
	カリフォルニア工科大学の名物講義「ファインマン物理学」で有名な物理学者R.P.ファインマンのユーモアにあふれた自伝です。持ち前の探求心と、いたずら好きの笑えるエピソードの中に科学への真摯な態度が見えとっても楽しい読み物です。下巻の最初のエピソード“ラッキー・ナンバー”は彼の頭の切れを実感するものでした。 (図書館長 向田一郎先生)	アメリカの物理学者、ファインマンの自伝。子供時代からの、抽象的なものを具体的な数値で考えることであっさり理解できたという様々なエピソード。私は数字が苦手だが、それを乗り越える価値(楽しみ)がある事を教えてくれた。 (救急救命学科 青山裕彦先生)